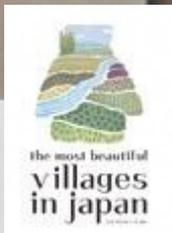


広報④  
No.731  
令和7年

# いいたて1

[www.vill.iitate.fukushima.jp](http://www.vill.iitate.fukushima.jp)





飯館村長

杉岡 誠

新春を寿ぎ、謹んでお慶び申し上げます。  
昨年は、村民の皆様、ふるさとの担い手の皆様の「わくわく」の花が力強く咲き始める年となりました。また、村内で創意工夫溢れるイベントが年間を通じて多数開催され、話題に事欠かない一年ともなりました。

「いたてホッププロジェクト」で飯館村初のクラフトビールが製品化され話題を集めたほか、「あぶくまもち」がセブンイレブンの冬ギフトカタログに掲載され、全国デビューを果たしました。また「飯館村産黒毛和牛」をはじめとする、農家の皆様が丹精をこめて育まれた村産品をふんだんに使ったメニューを全国各地で提供して、ファンを増やす取り組みも継続してきました。

本年は、村初のドラッグストアのオープンが控えております。産業

団地の早期整備、新たな企業誘致の推進、スポーツを通じた健康寿命の増進、訪問型医療・福祉の拡充、子ども達の笑顔溢れる教育環境の充実などを進めます。また、昨年村内に開店した民宿やスイーツのお店、農業研修館きらりや、各店舗と連携した関係人口を増やす取り組みも進めて参ります。

「村を興さん、村を富まさん」とする村民の皆様、類まれなる熱意・意欲を大事にさせていただきながら、行政として、共に発展に取り組んで参ります。

そして、「村民が幸せになることが自治体としての使命」という基本に立ち返り、脱皮や再生を連想させるこの「巳年」が新たなはじまりの契機となるよう、未来に向けた村政運営に努めます。

結びに、皆様の益々の健やかさとお幸せをお念じ申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



飯館村議会議長

高橋 孝雄

新年を迎え年頭のご挨拶を申し上げます。  
村民の皆様におかれましては、新年を迎えまして益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみますれば、一月元日に突然、能登半島を襲った大きな地震により、多くの尊い命を奪われてしまいました。それに追い討ちをかけるような大雨洪水に、またも大切な人達が流されてしまいました。犠牲になられた方々に謹んでお悔やみ申し上げると共に心よりご冥福をお祈り致します。

そして今尚、仮設住宅で不自由な生活を送られて居ります皆様に心からお見舞い申し上げますと共に、一日も早く平穏な生活に戻れますようお願いいたします。

さて、飯館村も震災原発事故から13年10か月、現在帰村されてい

る村民の皆様は、震災前の4分の1、そして避難先で仕事を見つけて働く人達は村に戻っても、働く所がないので戻れないと言っております。村に働く場所をつくるには、工業団地を早く完成させて、企業の誘致を進める事で働く所が確保出来ます。さらには先祖代々引き継いだ田畑を荒さない為にも、村に戻り作物栽培をする事が村の復興を加速させますので、村民皆様のご協力をお願い致します。

そして子ども達の元気な声が大人達の大きな励みになります。子ども達の成長にしても、我が身を抓って人の痛みの解る、優しく賢い人に育つように願うばかりです。震災原発事故前の美しい飯館村に戻して未来の子ども達に引き継いでいきたいと思えます。

村民皆様のご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

# 迎春

令和七年





冬に赤い実を付ける南天は「難を転じる」縁起物。花言葉も「福をなす」です。

目次 CONTENTS

- 02 新春のごあいさつ
- 04 特集「飯館で新しい暮らしが始まっています」
- 10 学びの広場「手づくりMY弁当の日」ほか
- 12 報告「12月議会定例会」
- 14 空から百景「あいの沢」
- 16 いいたて便り
- 18 話題のパレット
- 21 村からお知らせ
- 22 お知らせ「第7次総合振興計画」
- 23 お知らせ「消防飯館分署から」
- 24 いいたてイノサル通信
- 25 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 26 村民広報委員コラム ほか
- 27 ひとのうごき ほか
- 28 ほっとNEWS／お知らせ

📷 今月の表紙



菓子工房Cocitto(コチット)を営む地域おこし協力隊の高橋洋介さん。草野地区に店舗兼工房を構えました。プレオープン中の店頭に、焼き菓子やケーキが並んでいます。

菓子工房Cocitto 飯館村草野字大師堂65  
🕒 午前10時～午後5時 📅 休 日曜日・月曜日  
☎ 080-5416-3764

村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係☎0244-42-1613までお知らせください。

特集

# 飯館で 新しい暮らし が始まっています

## 飯館で暮らすことを選び 移り住んで自分を磨く ふるさとの担い手達

平成29年に飯館村の19行政区で避難指示が解除された後に、他の自治体から村に移り住んだ方は、令和5年度末現在で、1,222世帯1,800人となっています。令和6年12月1日現在、村内に居住する村民が、804世帯・1,521人であることを考えると、7年半の間に1,800人もの方が、村を居住地に選び、村民として村で暮らしていることは、心強い限りです。

移り住む方がなぜ飯館村を選んだのか、その理由やきっかけはさまざまですが、お話をうかがうと、「飯館村の自然や人に魅力を感じて移り住み、飯館村が好きだから暮らしている」という共通項が見えてきます。村は、人口増加策の一環として、この動きを確かなものにするべく、移住の支援、定住の支援を強化しています。

また村は、震災などにより村を離れた方が、もう一度村で暮らすことを選び転入することも見据えて支援制度を設計しています。



「飯館村移住・定住ポータルサイト」のQRコード。村HPのバナーからもアクセスできます。

### 移住と定住の増加に向けて さまざまな事業を展開しています

飯館村に関心を持ち移り住みたいと考える方への働きかけや、住宅の確保、移り住んだ人と古くから暮らしている人の交流創出などに取り組んでいます。今年度の事業の一端を紹介します。



近年移り住んだ皆さんと、元々住んでいた皆さんが、ぐっと距離を縮めて交流する「パークゴルフde村の担い手大交流会」を開催。プレーと会食の後の表彰式の場面。



移住検討者向けモニターツアー「子育てわくわくミチシル旅」を2度開催。1泊2日のツアーで、飯館村の充実した子育て環境を体感していただきました。

住宅確保については令和7年度中に村営住宅を新設する計画も進めています。



6人の空き家・空き地バンクサポーターにご協力をいただき空き家・空き地の活用を推進しています。写真は専門家を招いて開いたサポーター意見交換会の様子。



移住検討者向けモニターツアー「はじめてのミチシル旅」の一場面。今年度の「ミチシル旅」は各回にテーマを設け、村民の協力を得ながら計8回実施しました。



役場に隣接するいいたて移住サポートセンター「3ど」。移住に関する相談や、定住支援の窓口となっています。



あがべこ訪問看護ステーションに着任した看護師の井口栄子さん(写真中央)は経験豊富な即戦力。



情熱を持って「おいしい野菜」づくりに取り組むエムケーファームの寺島翔太さん。



いいたて結い農園に着任した堀川洋子さん。農村計画・博物館学等の研究者でもあります。



結い農園のもう一人は行友弥(わたる)さん。毎日新聞の記者や農業関係の研究者をしていました。

## NEW 企業雇用型の協力隊について

### 多彩な人材が企業を活性化しています

村は、今年度から、企業雇用型地域おこし協力隊の採用をスタートしました。企業雇用型の隊員は、村内の事業所に従業員として勤務し、事業者と共に、地域の賑わいづくりに取り組みます。協力隊としての任期は3年間ですが、その後も定着して仕事ができることを前提としています(詳細は事業所ごとに定めています)。

現在すでに4人の企業雇用型隊員が、それぞれの事業所で、力を発揮しています。また、採用活動中の募集企業における採用面接も、事業所及び村にて随時進めています。

企業雇用型の隊員の皆さんには、医療・介護・農業をはじめ多様な分野で、「ふるさとの担い手」としての活躍が期待されています。

### 〈企業雇用型〉

#### 令和6年度の募集について

今年度募集を行っている村内の事業所は以下の通りです。(令和6年12月15日現在)

- あがべこ訪問看護ステーション(追加募集中)
- 株式会社MARBLiNG(募集中)
- 株式会社エムケーファーム(追加募集中)
- 一般社団法人いいたて結い農園(採用済)
- 株式会社二瓶刃物(内定済)
- 一般社団法人飯館村振興公社(募集中)
- 株式会社サクラ・シスターズ(内定済)
- 社会福祉法人いいたて福祉会(募集中)
- 株式会社サガデザインシーズ(募集中)

募集の詳細な内容や申請方法については、いいたて移住サポートセンター「3ど」☎0244-68-2850  
✉iju@iitatelife.jpまでお問い合わせを。

村では、協力隊を募集してみたい事業所のご相談も受け付けています。



「飯館村移住・定住ポータルサイト」にて協力隊の皆さんの記事を公開しています。



カフェと食堂を営む横山梨沙さん。(令和4年～)



菓子工房Cocittoの高橋洋介さん。(令和6年～)

## 「起業」と「企業」で 活力をもたらす 地域おこし協力隊

「地域おこし協力隊」は、条件不利地域の活性化を目指す国主導の制度です。地域おこし協力隊は、過疎地域などの条件不利地域に都市地域から住民票を異動し、各自治体の委嘱を受け、「地域協力活動」を行います。令和5年度末時点で、およそ7,200人の隊員が、全国で活動しています。

### フリーミッション型協力隊について

飯館村ではこれまで6人が、フリーミッション型の協力隊員として、活動を展開してきました。現在は4人が卒業し、現役隊員の横山梨沙さんも令和7年1月に3年間の任期を満了します。村は今年度も新たにフリーミッション型協力隊の募集を行っており、応募いただいた方の採用面接などを進めています。

### 〈フリーミッション型〉 令和6年度の募集について

協力隊の活動期間中または活動期間終了後に、村内で飲食店や小売店等を開業し、村産品の活用や村のPRに積極的に取り組んでくれる方を募集しています。また、このジャンルに限らず、自身の提案による応募も可能です。

#### 「現在の居住地」に要件があります

条件不利地域に該当しない地域(3大都市圏または地域都市など)にお住まいの方で、かつ活動開始日に飯館村内に転入できる方が対象です。

※活動開始日は協議の上決定します。

その他、募集の詳細な内容や申請方法については、いいたて移住サポートセンター「3ど」☎0244-68-2850 ✉iju@iitatelife.jpまでお問い合わせを。



モノづくりのイベントを企画・運営している二瓶麻美さん。民泊事業も推進中。(任期:令和元年～令和4年)



株式会社MARBLiNGを立ち上げ「図図倉庫」を運営している松本奈々さん。(任期:令和元年～令和4年)



キャンドル作家の大槻美友さん。古民家を改装し「工房マートル」を開業・運営。(任期:令和2年～令和5年)

卒業後も飯館村をフィールドに3年間の任期を終えた後も、多くの隊員がそのまま村内で自身の活動を展開しています。

長男の楓真君は動物が大好き。



同世代の畜産農家と切磋琢磨し、黒毛和牛の繁殖と肥育に取り組む天野浩樹さん。3人の子も達はいいいて希望の里学園とままでの里のこども園に通学・通園しています。(令和元年移住/大久保・外内)



民家を改装し音楽スタジオ「KUMA SOUND HOUSE」と「つどい茶屋JAZZ喫茶くま」を立ち上げた「くまさん」こと佐藤祐喜さん。音楽を通じた交流が広がり、仲間と共に音楽イベントも開催しています。(令和元年移住/上飯樋)



仙台市の企業に勤務し、被災12市町村の事業を担当している山本耀司さん。仕事で通ううちに飯館への移住を決意。テレワークで仕事を続けながら、村で友人・知人の輪を広げ親交を深めています。(令和5年移住/深谷)



美術家の清水直土(なおと)さん。石彫に打ち込める場所を求めて移住し、森林組合に勤務しながら制作活動を続けています。移住後に結婚し、夫婦で飯館暮らしを楽しんでいます。(令和4年移住/草野)



アコースティックギターで弾き語りをする木村公一さん。音楽づくりに向き合うために、公務員を辞めて移住しました。移住先は、候補地を訪ね歩いて決めたそう。週に数日「3ど」に勤務しています。(令和6年移住/比曾)

## 移り住んだきっかけも なりわいも暮らしも... 十人十色の飯館暮らし

全村避難を経験し、多くのものを失った飯館村へ、新しい可能性を見出し、あるいは豊かな自然や人々の温かさに惹かれて移り住み、村民となった皆さん。なりわいやライフワークも多様で、周囲の人とつながりを深めながら、それぞれの暮らしを紡いでいます。



会社員時代に農業の魅力に触れ「飯館で花農家になろう」と移住を決めた小原健太さんと妻の貴子さん。花農家として成長する傍ら、交流の輪を広げ、飯館ライフを満喫しています。(令和2年移住/上飯樋)

飯館村に移り住んだ皆さんは、それぞれにこの村ならではのよさを感じて暮らしています。他の地域から移り住んだからこそ分かる、この村の個性や魅力を教えてくれる存在でもあります。

飯館村はそもそも古くから開拓移民を数多く受け入れてきた村で、パイタリティーある個性豊かな人々が、互いを思いやり助け合って暮らしてきました。移り住んできた皆さんも、まさにその見えないバトンを受け継いでいるように感じます。

ここで生まれ育った皆さんも、新たに村民となった皆さんも、ぜひ一緒に、飯館村をより魅力的に輝かせていきましょう。新しい年が全ての皆さんにとって、ますます素敵な年になりますように。



「飯館村移住・定住ポータルサイト」に移住をした方々のインタビューを掲載しています。



看護師として避難中の村民に出会い、その人間性に惹かれ「飯館に恋をした」と言う田中久美子さん。「村を少しでも元気にしたい」と移り住み、ベーグル専門店「村カフェ753」を開店しました。(令和元年移住/深谷)



ジャザーさん、ジョイさん夫婦はフィリピンで大学を卒業後に来日し、福島市で出会いました。共にハヤシ製作所に勤務し、長男の海斗君はままでの里のこども園に通っています。(平成30年移住/大久保・外内)



二瓶貴大さんは、刃物の製造・修理を行う「刃物の館やすらぎ工房(二瓶刃物)」の4代目。刃物工場の適地を求めて飯館村へ移住しました。妻の麻美さんは地域おこし協力隊としても活躍しました。(令和元年移住/大倉)

「手づくりMy弁当の日」 お家の方と一緒に弁当作りに挑戦!



12月3日は、いいたて希望の里学園の「手づくりMy弁当の日」でした。同学園では、食育と家族への感謝を育む教育の一環として、年に2回、児童生徒が家族と共に家庭で作った弁当をお昼に食べる「手づくりMy弁当の日」を実施しています。

児童生徒は、食材の買い物や弁当作りを手伝ったり、作ってもらったおかずを弁当に詰めたり、家族と一緒におかずを作ったり、自身でおかずを作ったり、それぞれの成長にあわせて、弁当作りに取り組みます。

「手づくりMy弁当の日」の当日、各教室に、彩り豊かで、楽しくおいしい弁当が勢ぞろいしました。活動の振り返りのシートには、達成感や日頃の感謝を綴った児童生徒の感想と、お家の方の温かなコメントが並んでいました。



いせひでこ先生 絵本ワークショップ



12月11日、いいたて希望の里学園で、いせひでこ先生によるワークショップが開かれ、午前中に1～3年生、午後に4～6年生の児童が絵本の制作に取り組みました。今回は、6月に行われたワークショップで「手」をモチーフに描いた絵本の原画に言葉を添える活動です。児童は絵本の場面を思い浮かべながら、「一緒に遊んで」「お散歩に行こう」など思い思いに言葉を紡ぎ、皆で協力して絵本をつくり上げていました。



1～3年生



4～6年生



までいの里のこども園 生活発表会



わかば組(0歳児)  
みんなでリズム遊び「わかば組メドレー」



つばみ組(1歳児)  
表現遊び「たまごのあかちゃん」



たいよう組(3歳児)  
創作劇「うさぎのきっさてん〜キッチンカーでレッツゴー!〜」



そら組(5歳児)  
創作劇「ふしぎなうらしまたろう」

12月14日、までいの里のこども園の生活発表会が、園のホールで行われました。

0～5歳の子ども達が、年齢ごとの成長に合わせて、リズム遊びや手遊び、歌や劇、楽器の演奏などを行い、1年間の園生活の成長を披露しました。保護者の皆さんは、一生懸命に発表する子ども達に拍手を送り、かわいらしい姿に笑顔いっぱいでした。



はな組(2歳児)  
表現遊び「おおかみなんかこわくない!」



つき組(4歳児)  
創作劇「11ぴきのねこ」



3歳以上児  
合奏「ゆめをかなえてドラえもん」



令和6年12月議会定例会は、12月6日から12月13日までの日程で開かれました。一般質問は12月10日・11日に行われ、村議員が村政の重要な課題等について村側の考えを質しました。  
議案審議は13日に行われ、提出された議案はすべて原案どおり可決されました。

今議会で可決された議案など

- 令和6年度 飯館村一般会計補正予算
- 令和6年度飯館村国民健康保険特別会計補正予算
- 令和6年度飯館村介護保険特別会計補正予算
- 令和6年度飯館村簡易水道事業会計補正予算
- 令和6年度飯館村農業集落排水事業会計補正予算
- 令和6年度飯館村農業集落排水事業会計補正予算
- 飯館村道路、水路等の法定外公共物の管理に関する条例
- 飯館村水道条例の一部を改正する条例
- 農業水利施設等保全再生事業 営農再開支援水利施設等保全事業(飯館西部その1)ため池放射性物質対策及び補修工事(百目木ため池)請負契約の変更について

村長村政報告

紙面の都合上、一部省略しています。

帰還困難区域の対応

11月8日、村は「原発事故による帰還困難区域を抱える町村の協議会」に改めて加入しました。今後は、他の5町村と協議を重ね、要望活動など復興の加速化に向けた活動につなげていきます。

第7次総合振興計画の策定

令和8年度からの10年間の計画期間とする「飯館村第7次総合振興計画」の策定作業を開始しています。

10月8日の第1回計画審議会にて、委員15名に委嘱状を交付し、委員長には、福島大学行政政策学類の鈴木典夫教授が選任されました。また、翌9日の第1回計画策定委員会にて、民間公募による委員を含め10名の委員に委嘱状を交付しました。

さらに、4つの部会を設置し、計画策定の議論を進めていくことを決定しました。10月19日には、第1回専門部会を4つの部会合

同で開催し、ワークショップで現状の課題等の整理に取り組みました。

移住定住対策について

空き家・空き地バンク登録推進の取り組みとして、毎月「空き家・空き地バンクサポーター意見交換会」を開催し、情報を収集。共有し、バンクへの登録増加、住宅不足の解消に努めています。また引き続き、飯館村のPRや移住希望者の相談対応など、移住定住者の増加に向けて取り組んでいきます。

「きこり」「きらり」利用状況

4月から10月末までの「きこり」の全体利用客数は9171人で、このうち宿泊利用者は935人です。また、7月1日にオープンした「きらり」については、農業体験や農業研修を目的とした施設利用者7団体116人、宿泊利用者が144人です。

あいの沢キャンプ場

4月から10月末までに2230人の利用がありました。要望が寄せられていたWiFi通信環境は、10月末に整備工事が完了し、

稼働しています。また、この冬は試行的に12月下旬まで営業を延長しました。今後も村の観光・交流の拠点として広くPRし、交流人口の拡大を図っていきます。

道の駅までい館

4月から10月末までのレジ客数は、までい館が9万4403人、セブンイレブンが14万5864人です。

ふかや風の子広場

本年4月から10月末までに4249人のご利用をいただいております。週末には多くの家族連れで賑わっています。ドックラン「わんこの庭のびのび」も大変ご好評をいただいております。村内外の多くのお客様に楽しんでいただいています。

マイナンバーカード

本村における10月末現在のカード交付率は80.9%です。12月2日より、「マイナ保険証」を基本とする仕組みへ移行しましたが、村民が不安なく医療機関を受診できるよう制度の周知を図り、活用促進に向けた取り組みを進めていきます。

村民の帰還状況

11月1日現在の帰還者は627世帯、1186人で、帰還率は約26%です。これに、転入者279人と「いたてホーム」の入所者等を合わせた村内居住者は、804世帯・1524人です。避難を継続している方については、県外に144人、県内は福島市に1894人、南相馬市に268人、伊達市に232人、川俣町に215人、相馬市に116人など、合わせて2869人です。

「あぶくまもち」について

あぶくまもち生産組合の協力のもと、8.4haのほ場での栽培及び種子生産に取り組み、種子用種もみ約1.5t、食用米約34tを収穫しました。このうち、食用分のほとんどについては、今年も株式会社セブンイレブン・ジャパンの協力のもと、おむすびに加工され、村内ほか県内の店舗で販売される予定です。

また今年初めて、あぶくまもちを加工した「切餅」が同社の冬のギフト商品として、全国で販売されており、11月28日に福島

県知事を訪問し、その旨を報告しました。今後も村の特産品として栽培面積拡大、消費拡大、販売促進を進めていきます。

建設課関係

村道舗装機能回復工事については、今年度、15路線、延長4.4kmの工事を進めており、今月末はすべて完了の見込みです。

また、普通河川については、今年度、延長約18.4kmの除草を実施しました。村道の除雪については、業者委託による除雪のほか、今年度は5地区での行政区委託による除雪を行う体制を整え、対応してまいります。

教育関係

学校及びこども園では、2学期中の教育・保育活動についても、地域の方々に協力をいただきながら、予定されたカリキュラム・行事に取り組みることができています。

いたて希望の里学園では、10月26日に、いたてつ子発表会「赤蜻祭」が開催され、学年ごとに学習の成果が十二分に発表されました。



「村民の森あいの沢」エリアの中央に位置する「あいの沢溜池」です。水を抜いて行われていた溜池の工事が終了し、美しい水辺の風景が戻りました。「あいの浮橋」も元通りに浮かんでいます。冬木立に囲まれた右側の建物は、令和6年7月にオープンした「農業研修館きらり」です。小春日和だったこの日、林間の遊歩道は落ち葉の絨毯でふかふかの歩き心地。利用者の希望に応じて試験的に冬季営業を行っていたキャンプ場にはいくつものテントが張られていました（12月28日からは冬季休業）。令和7年も多くの皆さんにご利用をいただき「村民の森あいの沢」がますます賑わいますように。



協定締結式の会場で、署名を終えた協定書を手に、記念撮影に臨む数又代表理事組合長(左)と杉岡村長。

## JAふくしま未来と 包括連携に関する協定を締結

飯館村とふくしま未来農業協同組合は、包括連携に関する協定を締結しました。

締結式は、12月9日、村役場で行われ、同組合の数又清市代表理事組合長と杉岡村長が協定書に署名を行いました。

この協定は、地域経済の発展と持続性の向上、安全・安心な暮らしの実現を目的としています。村と同組合は、これまでの協力関係をさらに強化し、農業振興や食育、東日本大震災からの復興と風評被害払拭などに連携していきます。



警察官と共にあぶくま信用金庫を訪れ、職員に防犯グッズを手渡す飯館村防犯指導隊の皆さん。

## 年末年始に向けた 事件・事故防止キャンペーン

12月10日、村内各所で『年末年始における事件・事故防止運動合同キャンペーン』が実施されました。キャンペーンには、飯館村防犯指導隊、南相馬警察署、南相馬地区交通安全協会、飯館村交通指導隊など関係機関が集まり、いいたて村の道の駅までい館から、パトロール部隊が出動しました。

これに先立ち、飯館村防犯指導隊は、村内金融機関や事業所へ防犯グッズの配布を行い、犯罪や事故への警戒を呼びかけました。



個性豊かなバルーンアートのイタネちゃんリュックができました。最後列中央が講師のMORITTOさん。

## ひみつ基地どきどき 来館者3万人記念イベント

令和2年に開所した「ふかや風の子広場」の屋内運動施設「ひみつ基地どきどき」が、令和6年11月16日に来館者3万人を達成し、同12月15日に記念イベント「バルーン作り&バルーンショー」を開催しました。イベントは2部構成で、第1部ではイタネちゃんリュックを作るバルーンアート制作、第2部では風船工房MORITTOさんによるバルーンショーが行われました。イベントには総勢約60人の親子が参加し、バルーンの感触を楽しみながら、3万人来館達成をみんなでお祝いしました。

## 交流センター「ふれ愛館」で 相馬地区社会教育研修会

11月29日、交流センター「ふれ愛館」で、『令和6年度相馬地区社会教育研修会』が開催され、前村長の菅野典雄さん(佐須)が、「人生は片道切符」と題して講演を行いました。

研修会は、豊かな人生を歩むための社会教育、生涯学習の重要性をテーマに行われました。菅野さんは、飯館村公民館の館長を務めた経験を基に、地域住民が豊かな人生を歩み、生きがいのある地域づくりを推進するための「公民館の役割」について講演されました。



社会教育委員や自治体の担当職員に公民館の役割について講演する菅野さん(壇上)。質疑応答の場面。

## わくわく農業体験塾 育てた野菜で料理教室

11月30日、交流センター「ふれ愛館」のキッチンスタジオで、わくわく農業体験塾の料理教室が開催され、塾生らが畑で育てた野菜を使い、豚汁、白菜のお好み焼き、漬物の調理を行いました。

料理を完成させた塾生は、野菜づくりを指導した赤石澤備塾長(上飯樋)と共にテーブルを囲みました。料理の実食では、店で購入した野菜では味わえない、野菜本来の甘みや食感を堪能。おいしい野菜を食べられることのありがたさや、食べ物大切さを語り合い、親睦を深めました。



大きなお好み焼きを返してにっこり。育てた野菜を料理で味わい、そのおいしさを実感しました。

## 自主文化事業 クリスマス・コンサート

交流センターの自主文化事業『クリスマス・コンサート』が、12月8日、交流センター「ふれ愛館」で開かれました。コンサートではまず、県立福島高等学校のジャズ研究部が「ブルーボッサ」など3曲をフレッシュな演奏で披露。続いて東京で活躍するジャズバンド『Sweet Nail』が、「ウィンター・ワンダーランド」や「ハブ・ユアセルフ・ア・メリー・リトル・クリスマス」など10曲を披露しました。村内外から訪れたおよそ60人が、生の音楽を楽しみ、一足早いクリスマス気分を味わっていました。



『Sweet Nail』ボーカルの近藤淳さん(左)は癒しの歌声で聴衆を魅了。

MERRY CHRISTMAS!



キッチンスタジオは、  
装飾や小物でクリスマス  
の雰囲気。



ウェブマガジン「飯館村の食と暮らし」でレシピを公開しています。

## 前田行政区が11月に2つの催しを開催しました

### ボウリング交流会

11月24日、福島オークラボウルにて、前田行政区のボウリング交流会が開かれ、下は4歳から上は80代まで28人の参加者が、ボウリングを楽しみながら、世代を超えて和気あいあいと交流しました。

また、交流会の後には、飯坂温泉の飯坂ホテルジュラクへ移動し昼食会を開催。ボウリングの結果や互いの近況を報告し合い、住民同士のつながりをより強いものとする機会となりました。



### 放射線住民セミナーを開催

11月9日、双葉産業交流センターで、放射線リスクコミュニケーション相談支援センターが、前田行政区の住民を対象に、住民セミナーを開催しました。セミナーでは、放射線の基礎や健康への影響をテーマに講演が行われ、また、その後訪れた中間貯蔵施設では、除染土壌や廃棄物等の管理・保管の状況を見学しました。参加した皆さんは、放射線に対する理解や学びを深め、「放射線の仕組みや体への影響等を再確認できた」と感想を述べていました。



## 萩シェフを招いてクリスマス・ピザ教室

12月1日、交流センター「ふれ愛館」で、「いいたての宝さがしをしよう会Branch」が、料理教室『萩シェフとクリスマス・ピザを作ろう!』を開催しました。講師の萩春朋さんは、レストラン「HAGI」(いわき市)のオーナーシェフです。当日は、村内で生産された牛肉、シイタケ、春菊、ジャガイモ「イータテベイク」などを使った、クリスマス・ピザ、サラダ、パスタなどの調理を教わりました。萩シェフは、レシピの背景にあるエピソードや調理のコツを伝えながら教室を進行。参加者は、和気あいあいとピザの生地づくりなどに挑戦し、食材の魅力を生かしたメニューを笑顔で味わいました。

明らかに調理法を説明する萩シェフ。



## 飯館ライオンズクラブが色とりどりの花を寄贈

12月11日、飯館ライオンズクラブが、「いいたてホーム」と「まていの里のこども園」に色とりどりの花を寄贈しました。

それぞれの寄贈にあたり、飯館ライオンズクラブ会長の菅野典雄さん(佐須)は、「年末年始の寒い時期ですが、この花のように元気に過ごしてほしい」「花を見て、優しい気持ちをもって過ごしてほしい」と思いを伝えていました。贈る方も受け取る方もやさしい笑顔で、花に彩られた会場が、温かな雰囲気に包まれました。

寄贈を受け、こども園の園児達は、歌とダンスを披露し、元気いっぱいな姿で感謝を伝えていました。



シクラメンとアンズリウムの鉢花が贈られました。



## 長泥コミセンで「村民食堂」を開催!

11月26日、福島大学大黒ゼミの学生の皆さんが、長泥コミュニティセンターで、「いいたて村の村民食堂」を開催しました。数量限定で振る舞われたのは、飯館産の牛肉をふんだんに使ったスパイスカレー。試験栽培・実証栽培で検査をクリアした長泥産の米を炊き、キムチ、甘梅漬、ゆず大根などの漬物も添えました。住民や長泥で働く人、村外から訪れた人などが立ち寄り、スペシャルメニューを味わいながら、笑顔で交流しました。



通常の村民食堂は役場横の「まていな家」で月に1回開催しています。

## 第11回 飯館バドミントン交流会

11月24日、いいたてスポーツクラブ主催、CRSスポーツ工業株式会社協賛の『飯館バドミントン交流会』ダブルス戦が開催されました。いいたて希望の里学園のバドミントン部も参加し、村内外から参加した66人が熱戦を繰り広げました。



- 試合結果
- 男子ダブルス
    - 1位 菅本真矢・堀陽色
    - 2位 斎藤諒次・瀧澤俊太
    - 3位 大内雅也・紺野芯太
  - 女子ダブルス
    - 1位 佐藤由依・大和田花乃
    - 2位 星みづき・竹内美優
  - 混合ダブルス
    - 1位 鈴木竜太・佐藤由依
    - 2位 大澤和己・大東かりん
    - 3位 阿部裕斗・林さい子

## 帰還困難区域を擁する町村の協議会に加盟しました

村は、帰還困難区域を擁する町村の協議会に加盟しました。

村で唯一帰還困難区域に指定された長泥地区は、国の環境再生事業を受け入れ、段階に応じた実証事業を継続的に行ってきました。また、令和5年5月には、特定復興再生拠点区域と長泥曲田公園の避難指示が解除されました。令和7年には、新設された堆肥工場や資源作物の農地のエリアも追加で避難指示が解除される見込みで、協議が行われています。

村は、令和6年11月8日に、協議会への加盟を申し入れ、書面協議を経て11月27日付けで承認されました。今後は協議会の加盟村として共通の課題に対応し、帰還困難区域全域の避難指示解除、地域再生に向けた財源の確保などを、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村と共に、国に求めています。



## 道の駅に新たな「座右の銘」石碑

12月1日、いたて村の道の駅までい館の遊歩道に、「座右の銘」を刻んだ石碑が新たに設置され、お披露目会が開催されました。

今回設置された石碑は7基で、「道は拓ける」「人生に自動ドアはなし」「一生懸命 自分らしく」など、さまざまな言葉が刻まれています。この石碑は応募者負担で設置されており、石碑の除幕に合わせて出席者が、石碑に刻んだ「座右の銘」について、それぞれの想いを語っていました。



## 大久保・外内地域見守り隊セレモニー

12月3日、大久保・外内行政区が、同集会所前にて、地域見守り隊の出発セレモニーを行いました。この見守り隊は、地区の消防団と有志によって編成され、地域の安心・安全な暮らしの一助となるよう、週2回の見守り活動を実施します。本事業は「中山間地域等直接支払交付金事業集落機能強化加算」を活用したもので、高齢者世帯、一人暮らし世帯が増加傾向にある中で、時世にも合った先駆的な取り組みとして期待されています。



## 12月の村の動きと主なできごと

- 2日・臨時教育委員会(村役場)
- 3日・地球温暖化対策推進委員会(村役場)
- 大久保・外内行政区地域見守り隊出発セレモニー(大久保・外内地区)
- 3日・2024よい仕事おこしフェア(東京都江東区・東京ビッグサイト)
- 4日・ゼロカーボンビレッジいたて実行計画協議会(村役場)
- 4日・ゆずカフェ(いちばん館)
- 6日・8日・飯館産黒毛和牛販売会(いたて村の道の駅までい館)
- 6日・13日・12月議会定例会(議場)
- 7日・8日・JOIN移住・交流&地域おこしフェア2024(東京都江東区・東京ビッグサイト)
- 8日・自主文化事業クリスマスコンサート(交流センター「ふれ愛館」)
- 前田地区農地中間管理事業説明会(前田公民館)
- 9日・JAふくしま未来との包括連携に関する協定締結式(村役場)
- 10日・年末年始における事件・事故防止運動合同キャンペーン(いたて村の道の駅までい館他)
- 11日・いせひでこ先生 特別授業(いたて希望の里学園)
- 13日・第1回飯館村公共施設利用庁内検討委員会(村役場)
- 15日・ひみつ基地とときとき来館者3万人記念イベント(ひみつ基地とときとき)
- 子育て支援センター開放日(飯館村子育て支援センター)
- 14日・15日・移住検討者向けモニターツアー「子育てわくわくミチシル旅」(村内各所)
- 15日・佐須地区農地中間管理事業説明会(佐須集会所)
- 16日・飯館村第7次総合振興計画策定専門部会 生活部会(村役場)
- 飯館村第7次総合振興計画策定専門部会 健康部会(いちばん館)
- 17日・読書メッセ「ジコンテス」一般表彰(交流センター「ふれ愛館」)
- 18日・いたて村文化祭第5回実行委員会(交流センター「ふれ愛館」)
- 飯館村第7次総合振興計画策定専門部会 なりわい部会(村役場)
- 飯館村第7次総合振興計画策定専門部会 教育部会(まていの里のこども園)
- 20日・農業委員会定例総会(村役場)
- 定例教育委員会(福島市内)
- 明治大学中間報告会(村役場)
- 23日・読書メッセ「ジコンテス」表彰(いたて希望の里学園)
- 26日・第1回飯館村第7次総合振興計画策定推進委員会(村役場)
- 27日・仕事納めの式(村役場)

## 秋に開かれた2つのパークゴルフ大会

この秋、深谷行政区と飯樋四区(飯樋町、前田・八和木、大久保・外内、上飯樋行政区)が、それぞれいたてパークゴルフ場で、パークゴルフ大会を実施しました。深谷行政区の大会は、行政区として開催する震災後初の交流会で、パークゴルフ大会とバーベキューを実施しました。一方の飯樋四区は、行政区をまたいで参加者を募り、個人の対抗戦でパークゴルフ大会を実施し、競技の後に飯樋町集会所で交流会を実施しました。

どちらの大会も、再会を喜び合ったり、住民同士のつながり確かめ合ったりする温かな交流の機会となり、参加者からは「久々に会うことができうれしかった」「このような機会があれば、またぜひ参加したい」という声が聞かれました。これを読んでいる皆さんも、パークゴルフ場を活用して、地区の交流会を開いてみませんか?



深谷行政区の大会は11月10日に開催。パークゴルフの後には深谷集会所に場所を移してバーベキュー!



飯樋四区の大会は11月17日に開催。組や行政区をまたいで楽しい交流が続きました。



## 相馬地方広域消防 南相馬消防署 飯館分署から

### ■秋の全国火災予防運動を実施しました

消防飯館分署では、11月9日から11月15日までの火災予防運動週間に合わせて、関係機関と合同で、火災予防の働きかけを行いました。期間中、飯館村消防団が各行政区に分かれて防火パレードを実施し、村民に「火の用心」を呼びかけた他(写真①)、11月12日には、いいたて希望の里学園にて避難訓練と起震車による地震体験を行いました。起震車の乗車体験では、災害時の備えや身の守り方、地震についての理解を深めてもらいました。(写真②)



飯館村消防団  
防火パレード出発式



起震車による地震体験  
(いいたて希望の里学園)

### ■住宅用火災警報器の設置PRを行いました

飯館村女性消防隊は、住宅火災における焼死者火災を防ぐために、10月27日に開催された「いいたて村文化祭」において、住宅用火災警報器のPRブースを出展し、住宅用火災警報器の設置と点検、住宅火災の予防を来場者に呼びかけました。(写真③)



飯館村女性消防隊  
住警器設置・点検PR  
(いいたて村文化祭)

### ■高齢者世帯合同防火訪問を行いました

消防飯館分署、飯館村女性消防隊、飯館村社会福祉協議会、東北電力ネットワーク福島電力センターと合同で、高齢者世帯訪問を行いました。訪問先では、住宅用火災警報器を設置して火災予防を訴えました。(写真④)



高齢者世帯合同防火訪問

### ■飯樋町行政区防災訓練を行いました

飯樋町行政区では11月10日に防災訓練を行いました。避難訓練や消火器取扱訓練、濃煙体験、防災講話を行い、防災力の向上を図りました。(写真⑤)



飯樋町行政区防災訓練

## 第7次総合振興計画 策定作業を進めています

### ■総合振興計画は「村づくりの羅針盤」

総合振興計画は、いわば「村づくりの羅針盤」となるものです。村の最上位計画として、「飯館村をどのような村にしていくのか」(＝目指す姿)と、「そのために何をやるのか」(＝実現化の方針)を総合的・体系的にまとめ、計画書を策定します。

村の施策や事業は、総合振興計画の示す将来像や方針を元に、その実現を目指して組み立てられます。また、事業の一環である地域計画(現在の「地域みがきあげ計画」に準ずるもの)などにも反映されます。

総合振興計画は、行政運営の方針書であると共に、将来像や目標を村民と共有する大切な計画書です。対外的には村づくりの方針を表明する計画書ともなります。第7次総合振興計画(以下「7次総」)は、令和8年度からの運用に向けて策定します。計画策定のための組織を立ち上げ、令和6年秋からさまざまな検討が進められています。  
※7次総の構成、策定体制については、広報いいたて11月号P9をご覧ください。

### ■現況を整理し計画に沿って協議を進めます

村の現況を整理するために、初期の段階で、庁内各部署のヒアリングが行われました。現在運用されている第6次総合振興計画後期計画の実施状況についても、確認と整理を進めています。また、策定作業に係る組織を立ち上げ、有識者や村民に委員を委嘱。策定の方針や今後の進め方を含め、総合的な議論を深めています。

策定業務のスケジュールは、以下の表のようになっています。(現時点での見通しで、今後の話し合いや進捗状況により、追加や変更が生じます)

	令和6年度						令和7年度										
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
現況整理	■																
現計画・取り組みの把握	■																
基本構想案策定	■						■ 素案提示										
基本計画案策定	■						■ 素案提示										
計画書案の作成											■ 本編		■ 概要版				
①専門部会		●	●	●	●	●	●	●	●	●							
②策定推進委員会			●	●	●	●	●	●	●	●		●					
③策定委員会		●		●		●	●	●	●								
④振興計画審議会		●					●					●					
パブリックコメント・議会							■ 基本構想の確認				■ パブコメ		■ 議決				

※村民アンケートの実施の他、住民懇談会などの機会に計画案を示し意見交換を行うことも検討しています。

### ■第2回合同専門部会を開催しました

11月21日に、交流センター「ふれ愛館」で第2回の合同専門部会を開催しました。この日は、総合振興計画の根幹となる「村の将来像」について、各委員が考えを出し合いました。また、それらを元に、多様な世代や立場の委員が部会単位で議論を深め、話し合いの結果を全体に共有しました。

専門部会では、村民の皆さんから意見をいただくアンケートの実施方法や内容についても検討を進めています。



村の将来像について検討を行っています。村と協定を結ぶ6つの大学の学生もオンラインで参加しました(右上写真)。

## 村民の森あいの沢

歴史の散歩道

また、昭和58年からは第三次林業構造改善事業が5か年計画で実施され、キャンプ場や休憩施設など

「村民の森あいの沢」は、第二次林業構造改善事業により、昭和50年度からの3か年計画で建設が進められました。「あいの沢溜池」を中心に、自然環境と地形の特性を生かし、基盤整備の他、管理施設の建設、林間歩道や駐車場の整備などが行われ、昭和54年に完成。同年5月に開園式が行われました。

県道原町川俣線からのアクセスのよさも功を奏し、当初から、村民はもとより村外からの利用が多数ありました。昭和57年11月発行の広報「いたて」には「紅葉シーズンのあいの沢が連日芋煮会で賑わっています」と書かれています。

また、昭和58年からは第三次林業構造改善事業が5か年計画で実施され、キャンプ場や休憩施設など

「村民の森あいの沢」は、第二次林業構造改善事業により、昭和50年度からの3か年計画で建設が進められました。「あいの沢溜池」を中心に、自然環境と地形の特性を生かし、基盤整備の他、管理施設の建設、林間歩道や駐車場の整備などが行われ、昭和54年に完成。同年5月に開園式が行われました。

県道原町川俣線からのアクセスのよさも功を奏し、当初から、村民はもとより村外からの利用が多数ありました。昭和57年11月発行の広報「いたて」には「紅葉シーズンのあいの沢が連日芋煮会で賑わっています」と書かれています。



「あいの浮橋」は平成12年に完成。平成13年から17年には公募俳句を御影石に刻んだ「愛の句碑」250基を設置。



古民家を移築し平成5年に完成した民家園。震災後に改修されるまでは写真のような茅葺き屋根でした。

今年もよろしくお祈りします!

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

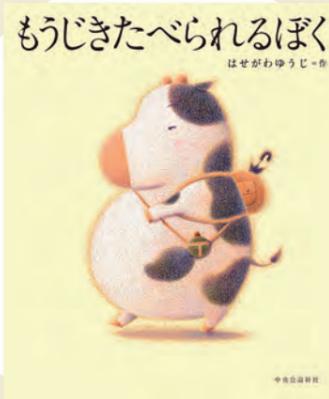
絵本ライブを開催します

1月25日(土)午後1時30分から、絵本ライブを開催します。楽しい歌や演奏に合わせた読み聞かせは、心も体もわくわくします。ぜひご参加ください。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

問 生涯学習課 ☎0244-42-0072

食用の牛として育てられたぼくが、食べられる前にお母さんに会いに行くお話。命をいただくということを、優しい絵がそっと教えてくれる泣ける絵本です。



おすすめ図書を紹介します  
もうじきたべられるぼく  
はせがわゆうじ作  
中央公論新社

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

## いいたて 21 イノサル通信

### サルの追い払い、どうすればいい?

～効果的な追い払い方法～

「サルは音を鳴らしても逃げない」とか、「逃げてもまたすぐ出てくるから追い払っても意味がない」といった声をいただくことがあります。そこで、今回は追い払いの仕組みと、効果的な追い払いの方法をお伝えします。

#### 追い払って、そもそもどういうこと?

大切なのは、サルの目線から見て「人間から追い払われている」と分からせることです。ただ大きな声や音を出しても、サルから見れば、うるさいだけです。これでは、逃げないサルもいます。声や音を出しながら人間がサルに迫って行けば、サルは人間から追い払われていると認識して逃げます。サルを自分自身に置きかえて考えると、身長が4mほどもある大きな生き物がいて、声をあげているだけなら様子を見ますが、声をあげながらこちらに迫ってきたら、相当怖いのではないのでしょうか。また、サルにとって林の中は、普段人間が来ない安全な場所です。サルが林に逃げ込んだ時点で追い払いをやめると、林の奥までは逃げないので、またすぐに出て来ます。林の中まで踏み込んで追い払うと、強いプレッシャーをかけられるので、次にサルが出て来るまでの間隔を長くすることが期待できます。

#### これが効果的な追い払いの方法!

- ① 音や声で威嚇する**  
道具を使って音を出したり、声を出したりするだけでも良いので、まずはサルを驚かせましょう。派手に打って出て、最初のインパクトを与えてください。
- ② サルに向かって移動する**  
声や音を出しながら、サルに向かって歩きましょう。迫ることで人間の怖さを体現してください。
- ③ 少しでも良いので、林の中まで入って追い払う**  
無理をしない範囲で、サルが安全だと思っている林の中まで踏み込んで、更に怖がらせましょう。人里の近くに安心できる場所などないと知らせてください。
- ④ サルの気配がなくなるまで待つ**  
林の中まで踏み込んだら、音や声を出しながらしばらく待ってみましょう。サルの気配が完全になくれば、林の奥まで逃げています。



追い払いのイメージ図

※あくまでも執筆者のイメージです。現実とは異なります。  
※危険ですので、乗用耕運機などを本来の用途以外に使用しないでください。

- サルはしつこく出て来ます。しつこく追い払いましょう。
- 効果的な追い払いを続けていれば、いずれ効果は出ます。根気よく頑張りましょう!

イラストも...!

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する京黒さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員  
きょうくろ あつし  
京黒 篤志 さん

令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務めています。令和6年度から飯館村の主担当となりました。

## あぶくまもち切餅 全国発売を県知事に報告



11月28日、杉岡村長と飯舘村あぶくまもち生産組合の青田豊実組合長（前田）が関係者と共に福島県庁を訪れ、内堀雅雄知事に面会。県が開発し、現在飯舘村でのみ栽培されているもち米「あぶくまもち」を使った切餅が、セブンイレブン・ジャパンの冬ギフトカタログに掲載され全国に向けて発売されたことを報告し、増産に取り組む今後の抱負なども伝えました。



購入予約は12月19日で受付を終了。商品が順次発送されています。



「ふかや風の子広場」のイルミネーションはもうご覧になりましたか。飯舘村商工会青年部が送る光のイベントで、今回が8度目の開催です。1月15日までの期間、午後4時から9時まで、毎日点灯されます（荒天時を除く）。配色も見事で、今年も非常に美しい仕上がりです。光に包まれた広場は別世界。ぜひ一度体感してみてください。

ふかや風の子広場  
イルミネーション点灯中



## ■ひとのうごき

### おくやみ

氏名	年齢	行政区
小林 信一さん	94	前田・八和木
高橋 サト子さん	81	佐須
堀井 リンさん	98	草野

ひとのうごき 令和6年12月1日現在		11月1日～30日までの人口動態	
人口	今月（前月比）	転入	3人
●男	2,290人（-8）	転出	6人
●女	2,239人（-3）	出生	0人
計	4,529人（-11）	死亡	8人
世帯数	1,794戸（-2）	（住民基本台帳人口）	

（11月21日から12月15日までに届け出のあったものを掲載）  
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

ご冥福をお祈り申し上げます



## いいたて村の道の駅までい館 飯舘産黒毛和牛とナツハゼぼん酢セットを販売

12月6日から8日の3日間、「いいたて村の道の駅までい館」が、飯舘産黒毛和牛の特別販売を行いました。今回販売されたのは、精肉店「肉のゆーとびあ」が、選りすぐりの部位をスライスして用意したしゃぶしゃぶ用の牛肉です。しゃぶしゃぶを、よりおいしく味わってもらおうと、「ニコニコ菅野農園」の「なつはぜボン酢」をセットにしました。

初日の6日、道の駅の入口には、販売を待つ人の列ができました。開店と同時に目当ての商品を手にした皆さんは、「お正月に帰省する家族と楽しみたい」「知り合いに贈りたい」と笑顔を見せていました。

黒毛和牛の牛肉と「なつはぜボン酢」のセット販売。



## 村民広報委員 富士男の

### ちょっと寄り道 ⑨

### 〈謹賀新年!〉



いつも毎年「本年も、どうぞ良い年でありますように!」と神様と仏様に手を合わせて1年の計を始めます。

幼い孫達が、ちっちゃな手を合わせているのを見ると、果たしてどんな事をお願いしているのかと、ふと想ってしまいます。

この全ての孫達、子ども達の未来が、私達以上に、平凡でも平和な時代になってほしいと願うばかりです。

去年は、世界のどこかで戦争や紛争があり、そして国内では闇バイト等の事件がありました。とても悲しい事であり、とても口惜しい事ばかりでした。おこがましいと思いつつも、どこかの国の誰かが言う「自国第一主義」ではなく、自分の言い分ばかりでなく相手の話も聞き入れ、譲る事、託す事も必要なのではないかと想ってしまいます。

飯舘村でもこれから色々な行事や催し事があり、色々な人との出会いがあると思いますが、互いを信じ、腹を割った、心からの付き合いができれば良いと想っています。楽な事ばかりではなく、この1年は何にでもチャレンジして、いつか、誰にでも、女房にも、「愛しているよ♪」そんな言葉を使ってみたくとも想っています。

そしてそんな想いを、この正月に誓ってみたいと想っています。



さまざまなジャンルの作品が飯館村に集う特別な2日間

12月7日・8日の2日間、  
「モノからはじまる実行委員会」主催のクラフトとアートのイベント「山の向こうから」が開催されました。

さまざまなジャンルの作家や事業所が飯館村に集い、二瓶刃物（やすらぎ工房）前の広場に出店しました。会場の入口は飯館村のみ育てられているもち米「あぶくまもち」の稲を使って装飾され、飯館らしい里山



山の向こうから

元地域おこし協力隊の二瓶麻美さんが企画する「親子で楽しめるモノづくりイベント」。協力隊時代の令和2年に第1回を開催以来、継続的に実施し、今回で5回目の開催となりました。



2024年飯館村10大NEWS  
皆さんの投票を大募集！

飯館産黒毛和牛のお肉5万円分引換券や宿泊体験館きこりのペア宿泊券が当たる『2024年（令和6年）あなたが選ぶ村のニュースベスト10』。1年間の村のできごとを振り返り、ぜひご家族で投票してください！（1月17日が締切です）



50項目から「これだ!」と思う10項目を選んでください。詳しくは同封のチラシでご確認を。左のQRコードからも投票できます！

問 村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613

〈編集後記〉

令和6年は、たくさんのお出合いのある1年でした。取材を通してたくさんの人と出会う中で、村を想う人の温かさに触れた1年です。今回の広報では、村に移住してきた皆様を特集しています。読者の皆さんも、直接会いに行ってみませんか？村を想う村民同士が温かく語らう、そんな風景を取材することを目標にしたいと思います。今年も

どうぞよろしくお願いたします。（巻野）

広報いいたては創刊号から縮刷版で保存されていて時折資料として振り返りますが、村や村民の奮闘ぶりが目に浮かんでどの時代を読んでも胸にじんときみます。今を生きる皆さんの歩みも未来の村民を驚かせたり微笑ませたり背中を押ししたりするのでしょうか。そしてこの真新しい1年のできごととまきつと。（星）